

研究テーマ『厚岸湾とその周辺における大型甲殻類寄生生物相の把握と分類学的研究』

エビやカニなどの甲殻類は、私たち多くの日本人にとっては食卓に欠かせない重要な水産資源の一つである。実は、こうした甲殻類には寄生虫がいることはあまり知られていない。甲殻類の寄生虫は私たちヒトへ危害を加えることはなく、食べることでヒトにも寄生されるといったことは起こらない。問題は私たちではなく、宿主となる甲殻類である。多くの寄生虫が寄生した甲殻類の繁殖能力を奪う、いわゆる寄生去勢を行う。寄生されている甲殻類は私たちが食べる分には問題ないが、甲殻類にとっては繁殖相手が減ることになる。寄生されている甲殻類の割合（寄生率）が低いときは繁殖相手を見つけるのに支障は来さないとされる。これが寄生されている甲殻類でいっぱいになると繁殖相手が見つかることが難しくなり、そのうえ私たちが獲って食べてしまうと次世代の水産資源が激減につながるおそれがある。ホッケイエビ、エビジャコ類、ハナサキガニなどといった水産有用種の甲殻類が豊富に生息している厚岸湾で甲殻類の寄生虫の研究されたことはほとんどない。厚岸湾の甲殻類にどういった寄生虫が生息しているのか調査を行った。

結果

厚岸湾で採集された18種の甲殻類を調べた結果、4種のヤドカリ類から4種類の寄生虫が得られた。一方で、今回の調査ではホッケイエビ、ハナサキガニ、エビジャコ類といった水産有用種からは寄生虫が得られなかった。

エラヤドリムシ類

本調査では2種のヤドカリから確認した。甲殻類の鰓に寄生する等脚類。寄生された甲殻類は鰓の左右どちらかが腫れあがることで見つけられる。寄生率は低く1～2%。

ハラヤドリムシ類

本調査では3種のヤドカリから寄生を確認した。ヤドカリ類の腹部に寄生する等脚類。3種のなかでカイメンホンヤドカリからフクロムシと両方に寄生される重複寄生が確認された。

フクロムシ類

本調査では2種のヤドカリからの寄生を確認した。フクロムシの卵巣など生殖器官がつまったエキステルナが房状にたくさん出現させることからフサフクロムシ *Peltogasterella gracilis* である同定できた。

オヨギハリガネムシ類

本調査ではツマベニホンヤドカリ1個体のみ得られた。甲殻類の体腔内に寄生する海棲ハリガネムシであり、日本国内からの記録は2例目と思われるほど、正式な記録が極めて少ない。オヨギハリガネムシはヤドカリに限らず、カニやエビにも寄生することが知られている。オヨギハリガネムシは宿主体内に寄生することからカニやエビに寄生していた場合見落として可能性が高い。この件については、より詳細な調査が必要と考えられる。